

Q

網戸を閉めていても虫が入ってくるのはなぜ？

A

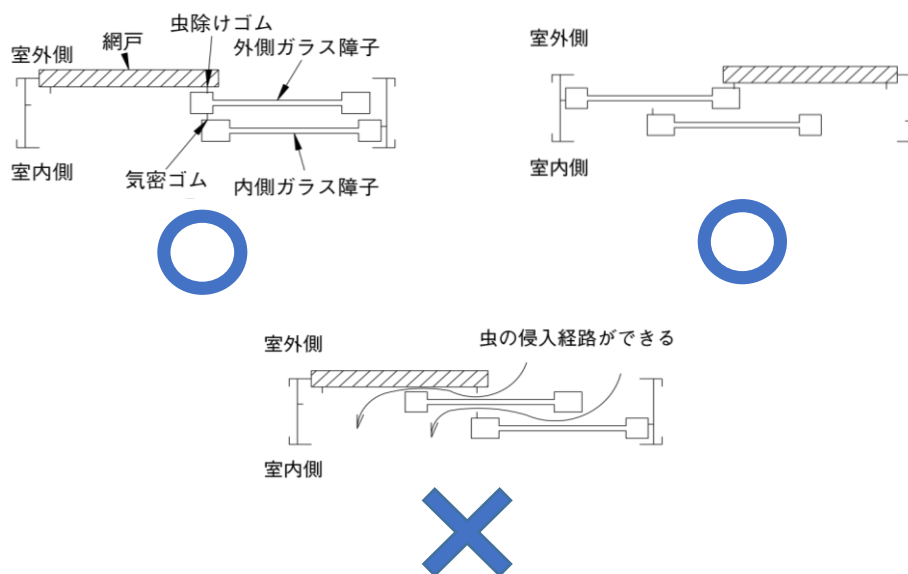
引違い窓用網戸はガラス戸及びサッシ枠及びサッシ枠レールとの間に隙間を設ける構造となっており、これらの隙間は、開閉に支障のない範囲で隙間ふさぎ材（パッキン）を取付けてふさぐようにしていますが、開閉構造の関係上、虫の種類や大きさによっては虫の侵入を完全に防ぐことはできません。

昆虫の一般的な習慣として、光に向かって飛来する他、10月、11月になっても寒さが感じられる時節、又は3月、4月のような春先の時節において、あるいは夏場でも山間部において朝晩の寒暖の差が大きくなると、外部の寒さから逃れるために、あるいは越冬のために暖気が感じられる家内に集まる傾向があり、更にサッシ枠と網戸の隙間にもぐりこもうとします。建物の周辺が自然環境に恵まれている所ほど昆虫の発生率が高く、このような傾向が強いといえます。

中でも、カメムシ、てんとう虫等の這い回る甲虫（こうちゅう）は、少しでも暖かい方に向かってわずかの隙間からでも押し入ろうとする習性が強く、このため、網戸とガラス戸の間に集まって固まることとなります。場合によっては、ガラス戸に設けたヒレ状の柔らかい材質のパッキンを押しのけて、室内に侵入することもあります。従って、網戸があっても、このような習性を持つ昆虫の侵入を完全に食い止めることはできません。

＜虫を侵入させない引違い窓用網戸の使い方＞

引違いサッシ用網戸を使う時は障子と網戸の配置に注意をしてください。



[（日本サッシ協会HP『サッシ・ドアの豆知識』より引用）](#)